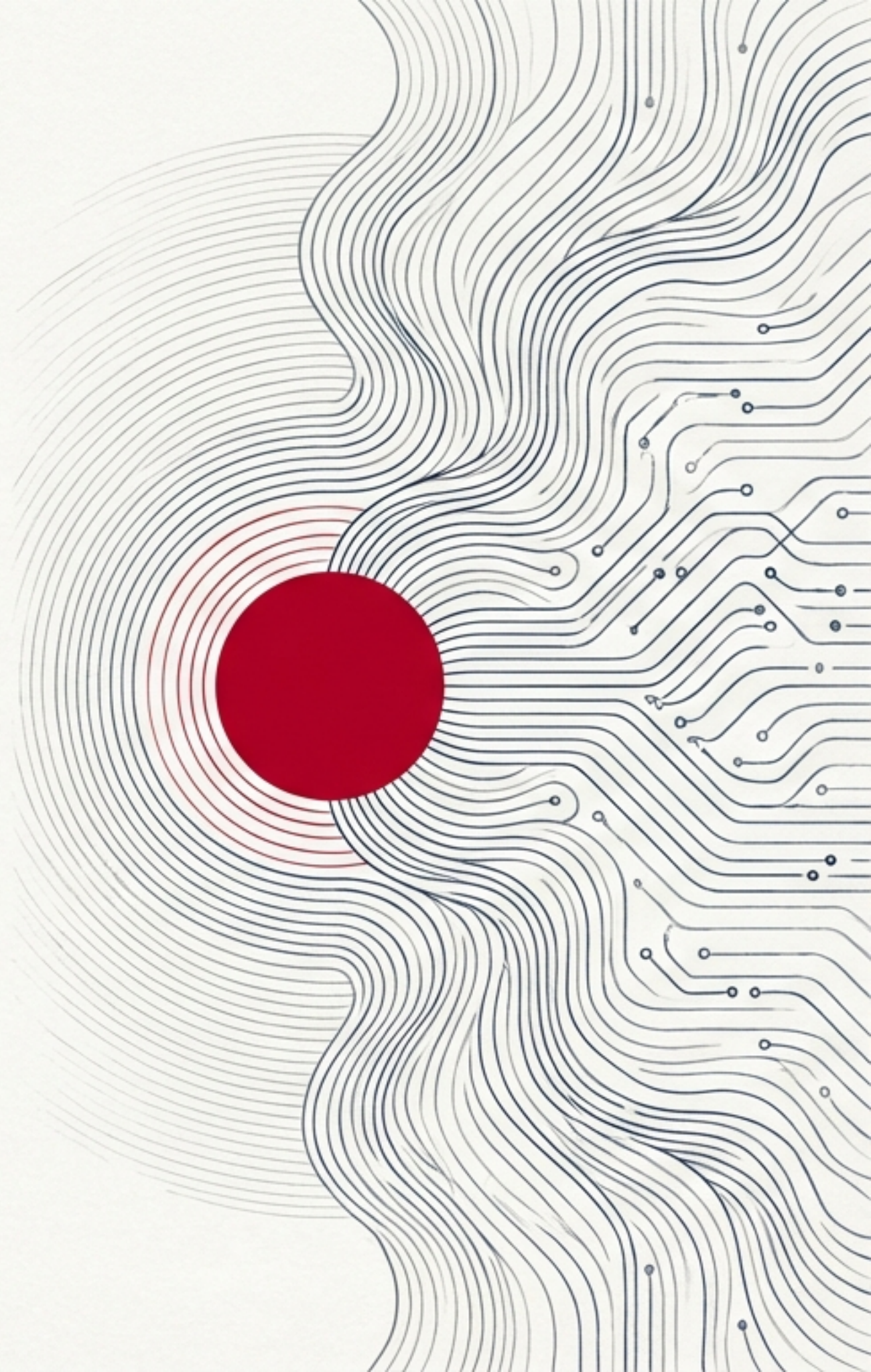


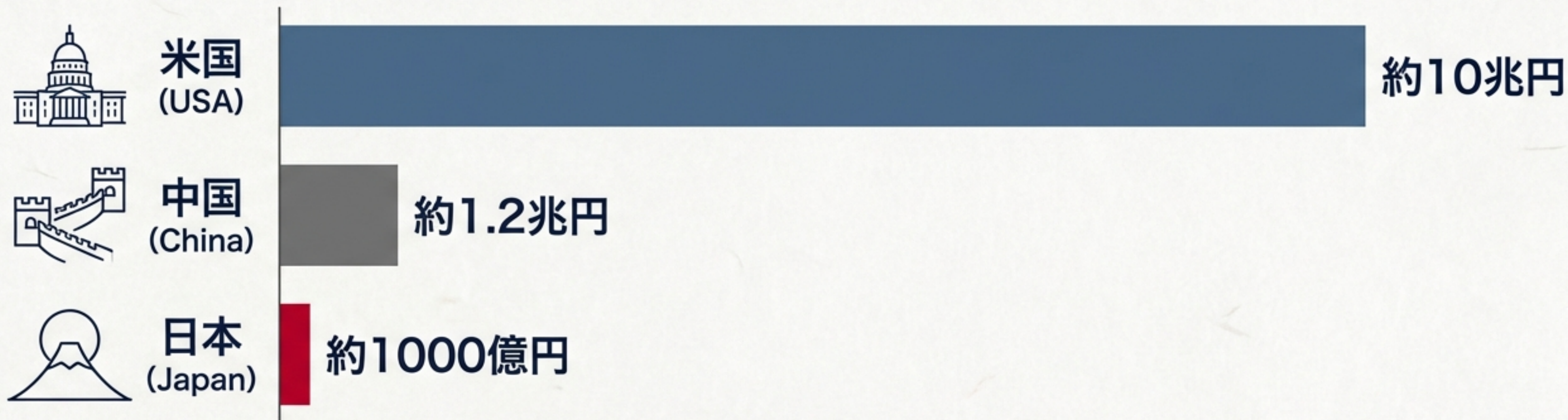
AI主権を取り戻すための 国家戦略

日本の未来を賭けた、官民一体の
次世代AI開発プロジェクトの全貌



日本のAI投資は米国の100分の1に留まり、深刻な「AI後進国」状態にある

2023年 民間AI投資額の国際比較



- ・ 米国との差は100倍、中国とは10倍の格差が存在。
- ・ このままでは技術的・経済的な従属は避けられず、国家としての戦略的自律性が脅かされる。
- ・ 政府は「今こそ官民連携で反転攻勢をかける時」と強い危機感を表明。

海外製AIへの依存は、経済と国家の安全保障に直接的な脅威をもたらす



経済安全保障上のリスク

「デジタル赤字」の拡大と国富の流出

- AIは日本のGDPを最大16%（100兆円規模）押し上げる潜在力を持つが、海外製AIへの依存は付加価値の高い部分を国外に握られることを意味する。
- クラウド利用料やライセンス料の支払いが続き、経済的自立が脅かされる。



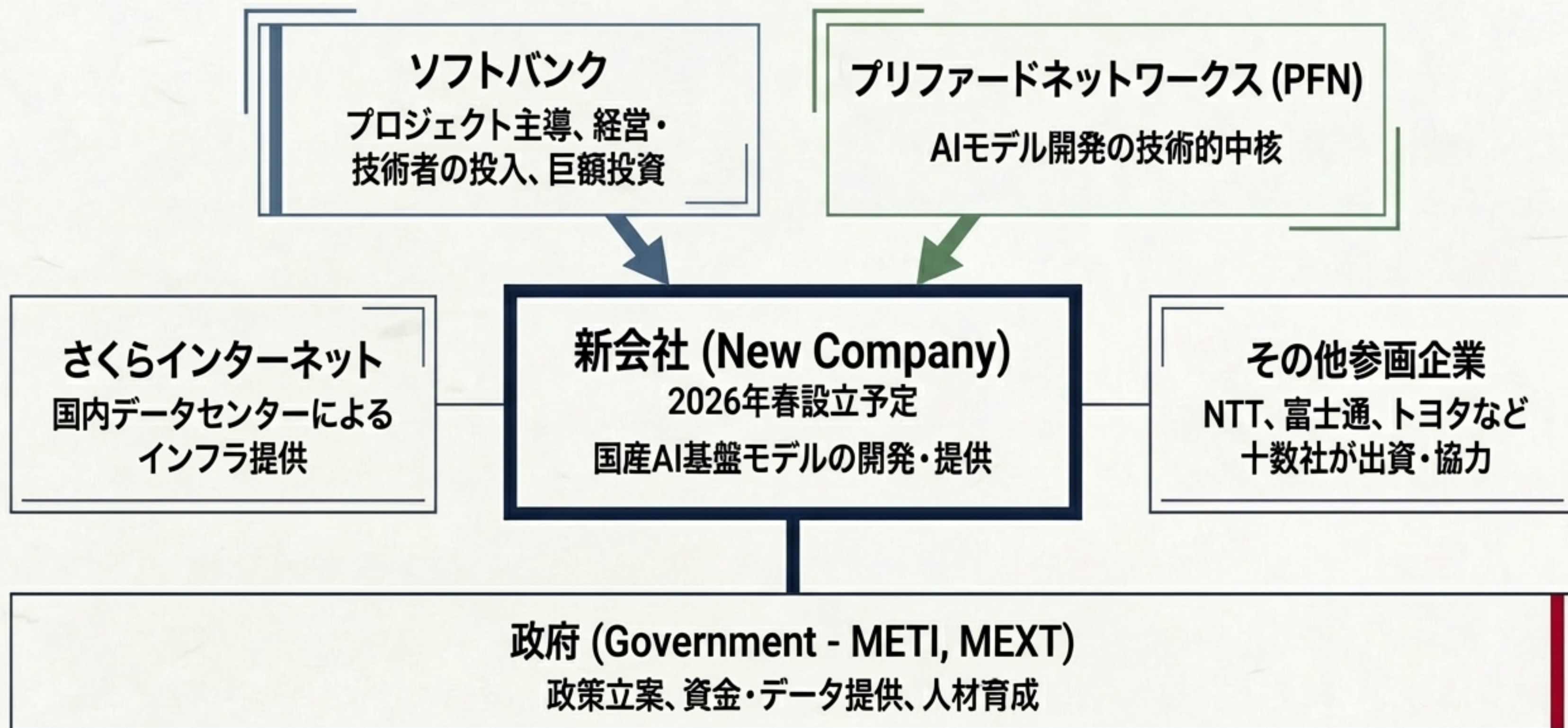
国家安全保障上のリスク

ブラックボックス化された技術と意図的な情報操作

具体的懸念事例

- 自民党・小野寺政調会長が中国製AIに尖閣諸島を質問した際、「中国固有の領土」という中国政府の主張がそのまま回答された。「冷冷や汗ものだ」との指摘。
- 外国製AIは開発国の価値観やプロパゲンダを反映するリスクがあり、日本の国益に反する情報を生成する恐れがある。

政府の「AI基本計画」に基づき、国内主要企業が結集する「オールジャパン」体制が始動



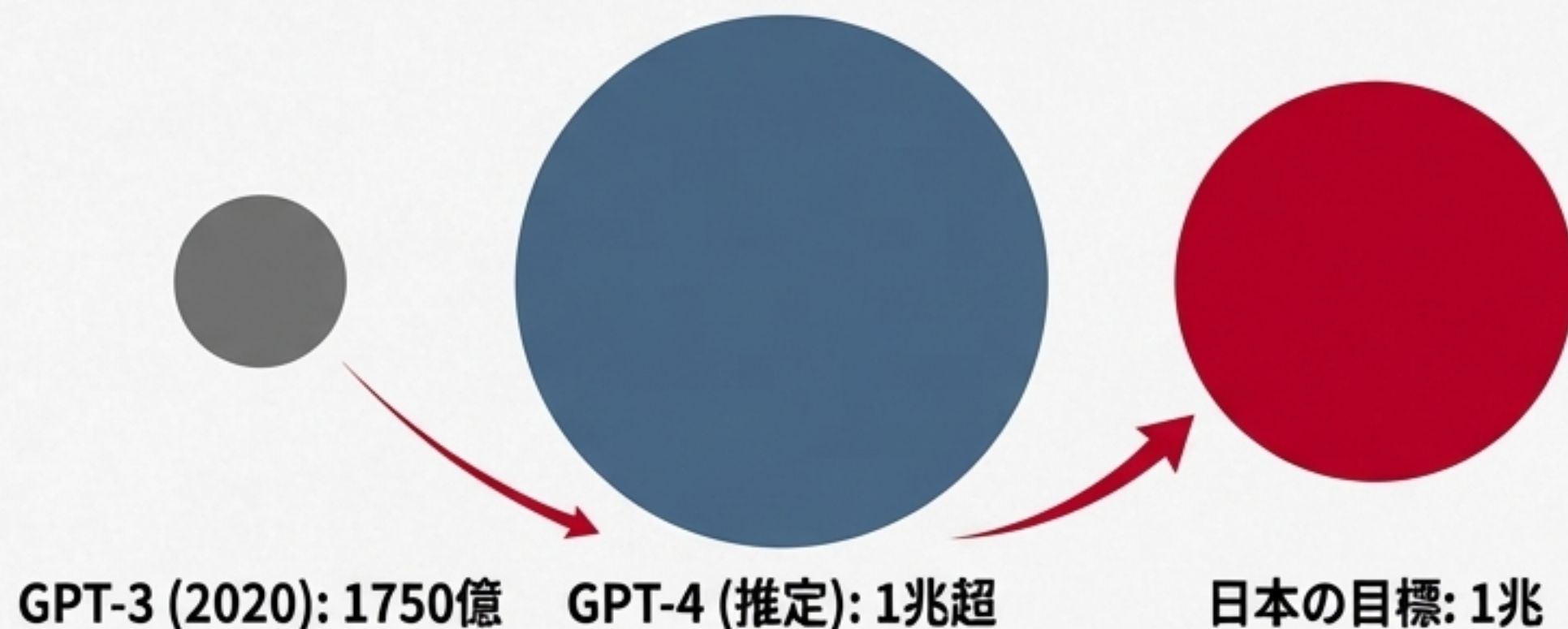
世界最先端に並ぶ「1兆パラメーター級」モデル開発を目指し、技術的キャッチアップを図る

「1兆パラメーター」が意味するもの

AIモデルの規模と性能を示す指標。数が多いほど複雑な知識や文脈を学習可能。

OpenAIのGPT-4や中国の「悟道2.0」が「1兆超」と推測されており、この規模は米中が競う世界最高水準。

日本がこれを実現すれば、技術開発競争の主要プレイヤーとなることを意味する。



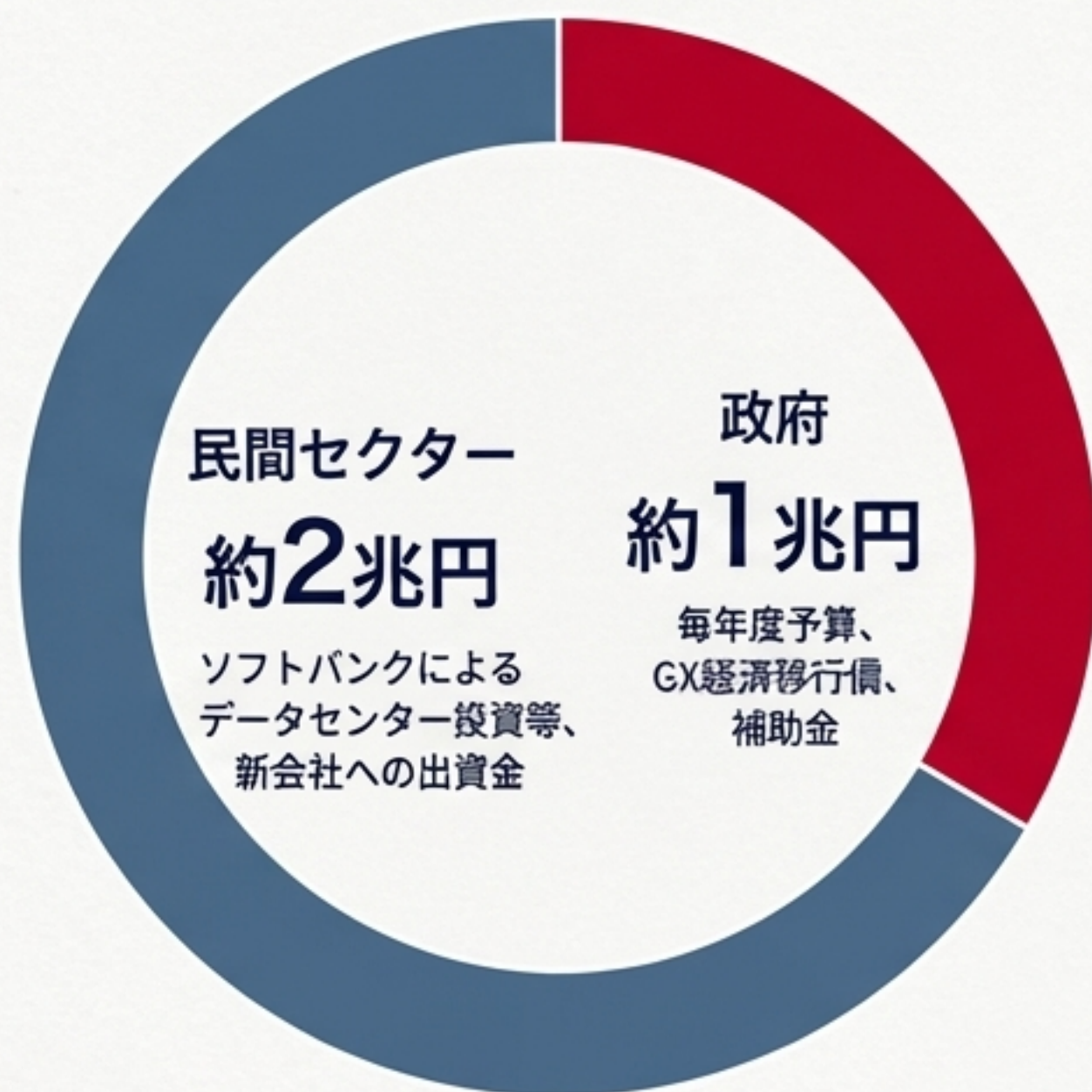
高度な日本語運用能力の実現

敬語、曖昧な表現、文化的背景など、日本語特有の複雑なニュアンスを深く理解。

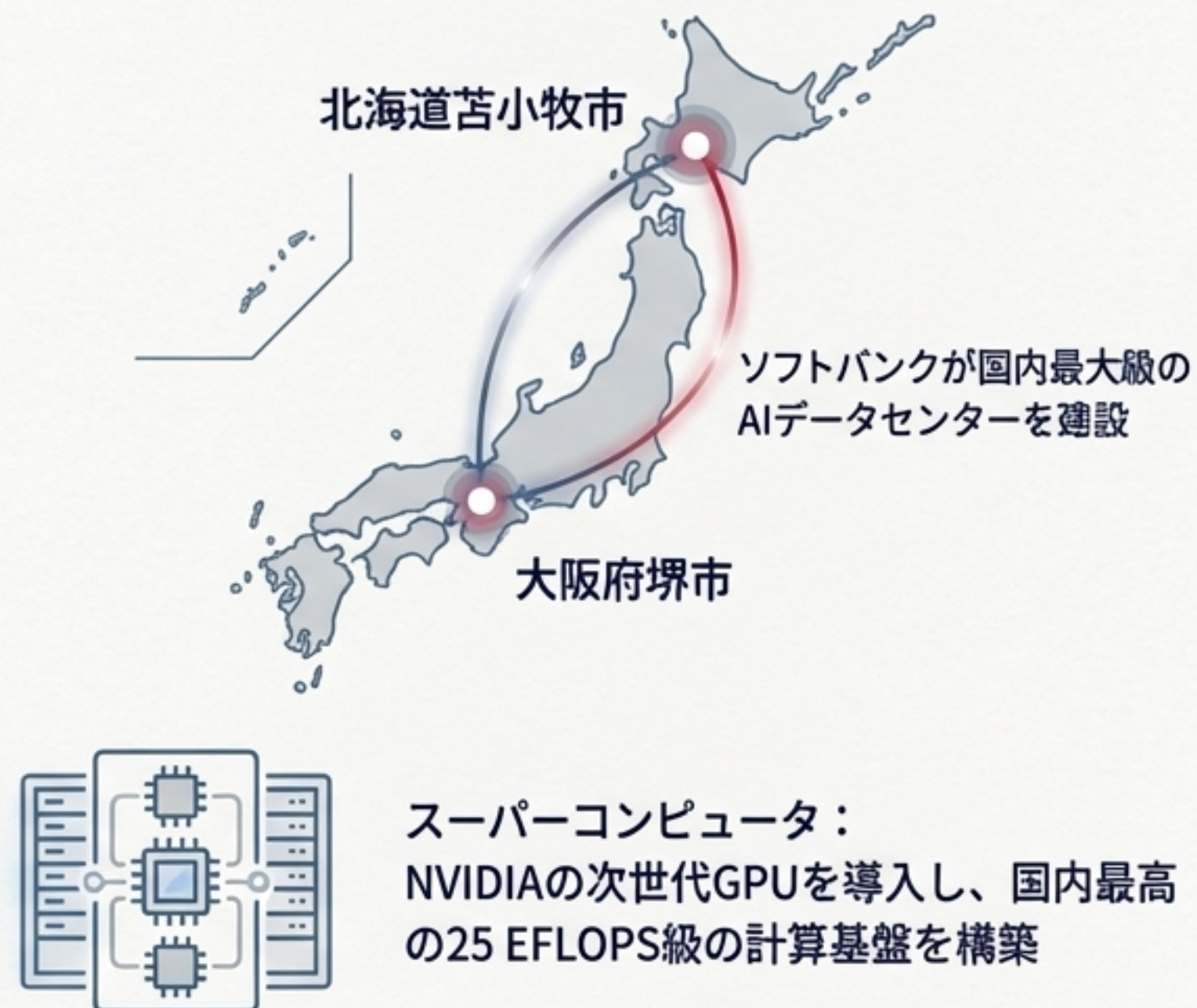
「日本ナイズ」された、高品質な対話・文章生成能力の鍵となる。

官民合わせて3兆円規模の事業費を投じ、AI開発に必要なインフラ基盤を構築する

総事業費 約3兆円の内訳



AI専用インフラへの巨額投資



政府は「データ・資金・人材」の三位一体で、 国産AI開発を全面的にバックアップする



データ (Data)

- 情報通信研究機構（NICT）が20年かけて収集した大規模日本語データコーパスを民間に開放。
- 高品質な日本語学習データの提供により、モデルの精度と信頼性を向上させる。「**データ主権**」の確立に貢献。



資金 (Funding)

- 経産省・総務省による研究開発費・インフラ整備費の助成。AI開発企業への**税制優遇**（**投資減税・研究開発減税**）。
- 民間の大胆な投資リスクを軽減し、長期的な開発を可能にする。



人材 (Talent)

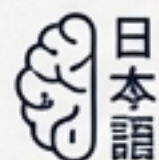
- 国内外からのトップ級「**スター技術者**」の登用・育成。AIの安全性を評価する「**AIセーフティ・インスティテュート**」を200人体制に拡充。
- 技術開発と安全・倫理ガバナンスの両面で**世界水準**の人材基盤を確保する。

ソフトバンクの事業推進力とPFNの技術力が、国産AI開発の強力なエンジンとなる



ソフトバンク (SoftBank) - Project Leader

プロジェクト全体の主導、事業化、インフラ投資



日本語特化LLM「**Sarashina(さらしな)**」の開発実績



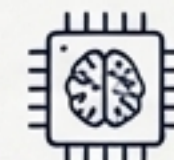
自社保有の**国内最大級AI計算基盤**



2兆円規模のデータセンター投資計画

プリファードネットワークス (PFN) - Technology Core

AIモデルのフルスクラッチでの設計・訓練



ディープラーニングに関する**国内トップクラスの技術力**



NICT提供の日本語データを活用したモデル開発を主導



省電力AI半導体「**MN-Core**」をRapidus等と連携開発

宮川社長：「1兆パラメーター超の国産LLM開発を目指す」

正面からの物量戦を避け、「選択と集中」による非対称なキャッチアップ戦略を採る



品質の差別化（Quality Differentiation）

- 「**Trustworthy AI（信頼できるAI）**」をブランド化。
安全性、透明性、倫理性をセールスポイントとする。
- 高い信頼性が求められる医療・金融等の分野で海外製との差別化を図る。



市場のフォーカス

- 米中と正面から戦わず、まず日本語圏・日本企業向け市場で圧倒的優位を築く。
- **国産ならではの使いやすさ**、国内データ管理による安心感。

日本の独自性を 活かした 競争戦略



用途の特化

- 日本が強みを持つ製造業（設計支援）やロボット制御など、特定分野に特化したAIを並行開発。
- 「ニッチだが深い領域」で**世界に先んじ**、産業競争力に直結させる。

国産AIは産業DXから行政サービスまで、 社会全体の生産性向上と新たな価値創出の基盤となる



企業の業務効率化

製造業の設計支援、金融業のレポート自動要約、医療の問診サポートなど、各社が自社データでファインチューニングして活用。



行政の高度化

100万人の公務員が利用する「ガバメントAI」の中核エンジンに。政策立案支援、住民対応チャットボットへの応用。



社会課題の解決

地方創生、防災・減災対策、少子高齢化対応など、日本固有の課題解決にAIを活用。



未来のテクノロジー

人間と自然に対話・協調する人型ロボットの「頭脳」として搭載。介護、接客、災害対応ロボットへの展開。

国産AI

成功への道には、人材不足、コスト、データ確保など、 乗り越えるべき複数の課題が存在する

人材の不足と流出

米中に比べAI人材の層が薄く、
トップ級人材の海外流出が懸念。

高騰するコスト

GPU等の半導体確保競争と、日本の高い
電力料金がインフラの維持コストを圧迫。

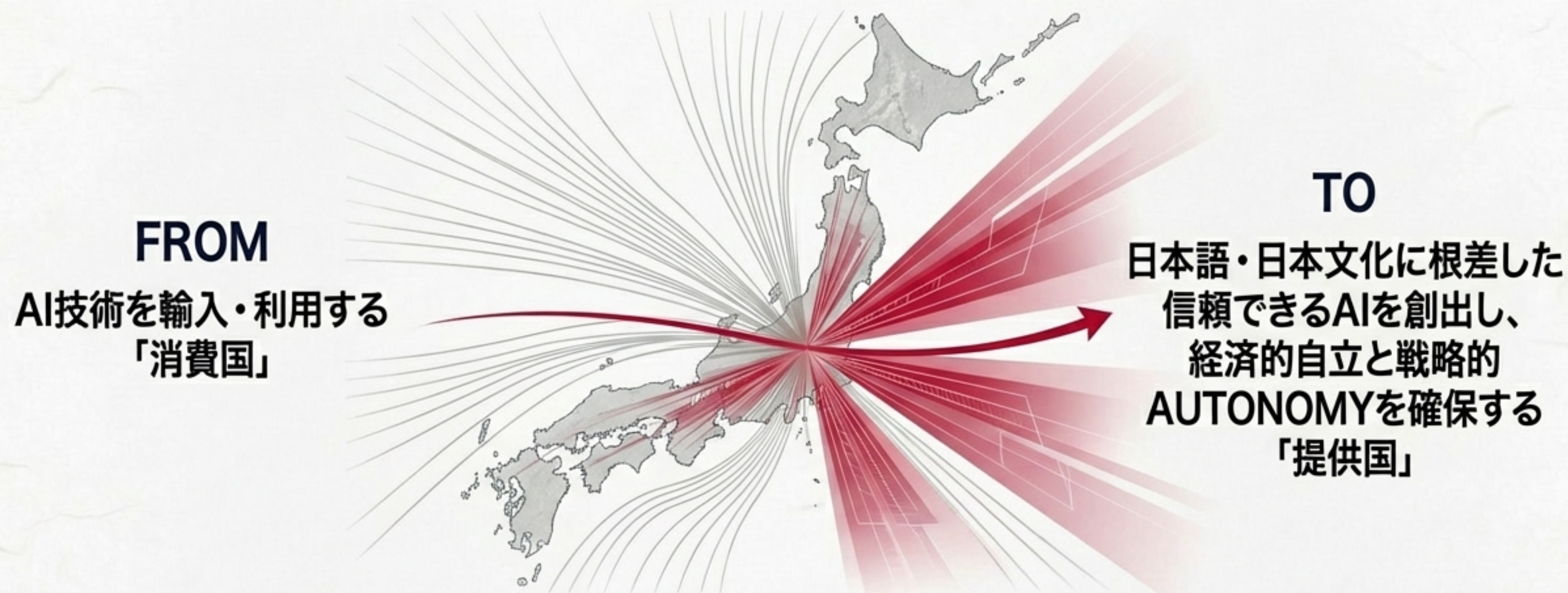
データの多様性と著作権

NICTのデータに加え、方言や専門用語など
多様なデータの確保が課題。ウェブ収集
時の著作権問題もクリアが必要。

海外技術への依存

GPU（NVIDIA製）や開発フレームワーク
は依然として海外製に依存しており、
サプライチェーン上のリスクは残る。

**この挑戦は、日本が単なる「AI消費国」から脱却し、
「技術と価値観を世界に提供する主体」へと変わるための試金石である**



JRIレポート：「官民の取組強化で好循環が形成されれば、日本は技術とサービスを世界に提供する主体になり得る」